

地域資源バンク制度の概要

1 現状と課題

- ・ 市民活動、福祉活動、災害支援、学校支援など、各分野に応じた登録制度や相談支援などの仕組みがある。
- ・ 人口減少や高齢化などの社会問題の影響もあり、地域活動の担い手不足が課題となっている。
- ・ 地元企業等から、地域への貢献や還元を希望する声が寄せられている。

主な課題	内 容
登録制度の分散	分野ごとに登録や相談の仕組みが異なっている。 市全体としての地域資源を把握しづらい状況となっている。
見える化の不足	個人・団体・企業の持つ力が、地域活動に活用できる資源として整理できていない。
担い手の不足	地域行事、福祉活動、防災活動、学校支援等において、協力者を確保しづらい状況となっている。
協力企業の受入体制	企業等の社会貢献活動を地元に還元できる仕組みがない。

2 「地域資源バンク」とは？

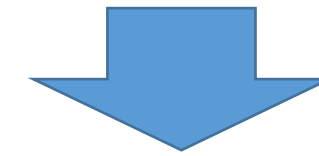
地域で活動できる個人、団体、企業等の提供可能な人材、技術、場所、物品、経験などの情報を登録し、地域活動や地域課題の解決に活用しやすくするための仕組み。

区分	登録内容の例
個人	活動分野、活動可能な範囲、資格、経験、活動可能日など
団体	活動分野、協力可能な内容及び人員、活動実績など
企業	社会貢献活動、協力可能な内容及び人員、技術、場所、物品名及び数量など

3 期待される効果

地域に存在している「人材」「団体」「企業」「場所」「物品」「経験」などが“見える化”され、各方面の活動で活用しやすくなる。

対象		期待される効果
供給	市民・団体	経験、特技などを地域に生かす機会が増加する。
	企業	社会貢献を地域にみえる形で発信することで、地域との関わりが生まれる。
需要	地域、学校など	各活動に必要な人材、場所、物品などが見つけやすくなる。
供給 需要	行政	分散している登録情報や地域資源を横断的に把握しやすくなる。



“オールあま”

市民・団体・企業・地域・学校・行政などが連携し、地域課題の解決や地域活動の充実につなげていく。